

文の切り貼りをさせない記事発表の取組から

芝浦工業大学柏中学高等学校 杉浦正和

1. はじめに

現在の中学高校生はほとんど新聞を読んでいない。テレビやネットなどで話題になると見ることがあっても、日常的に新聞を読んで社会の動きをウォッチする習慣がないのである。そこで、高一「現代社会」の授業で記事発表を行ってきた。その目標は、社会問題に広い関心を持ってもらうことと、内容的に深く理解しないまま一種の「国語」問題として処理させないことである。この論考は、本年 3 月の全国高校 N I E 研究会第 9 回研究発表大会に向けて準備したものであるが、公表されるものではないので『紀要』にも発表する。

2. 2004 年度の取組からの変化

2005 年の全国高校 N I E 研究会第 3 回研究発表大会では、「時事問題を通して社会参加と意見表明を」として以下の内容を発表した。

まず、新聞教育を、消費文化情報の飽食化に対抗、新聞で社会参加、知的文化への関心育成、新聞を読むことで情報活用力の育成として意義づけ、社会参加の観点から「公民科」授業の中で、生の記事を資料として使うことを重視した。特に、新聞を読ませる実践として、科目「現代社会」で毎時間の授業冒頭で、指名生徒による新聞記事の発表、「今日のビッグニュース」を行ってきた。

指名された生徒が、準備シートで記事の内容を整理し口頭発表 = 2 分間スピーチをして、他の生徒は 1 行メモをとる方式である。シートは、事件名、事件概要、用語説明、コメントを記入するものだったが、記事を部分的に読みあげる生徒が多く、概要を理解した上でわかりやすくスピーチできる生徒が少なかった。そこで、原稿を丸読みさせずにスピーチする訓練と位置づけて、三つの見出しのある記事を選ばせて、見出しを活用して - 要約し、その作業過程を示す項目をつくって、メモを体言止めの形で書かせることにした。シートの項目は、選んだ理由、三つの見出し、見出しを補足する情報(5W1H)、見出しと関連し背景となる事実、写真や表、グラフ、イラスト、難しい表現に分かりやすい表現を書き加える、見出しをつなげた説明に必要な重要情報をマーク、全体を整理した事件説明メモ(体言止め)、二つの視点(疑問や解決策など)と自分の本音、事件説明メモで一番重要だと考えられる情報、二つの視点から整理した感想意見のメモ(一文一意)と、11 項目にもなった。

工夫としては、見出しを組み合わせて概要を書かせることと、体言止めのメモ、疑問や解決策などの視点を立てた感想意見であった。

3. 現在の取組と工夫

2005 年報告以後、準備シートの形をいろいろ変えてきた。大きく変えたのは、B4 版による生徒発表が大変だったため負担を軽くしたことである。B5 版に戻して、三つの見出し、見出しを使った概要、詳細説明、意見(疑問や提案、その他の形)の 4 項目に絞った。見出しは記事から写すだけで、がこの三つの見出しに若干の情報を加えた概要説明であり、がこの概要からわからない情報を加えた詳細説明となる。ここまで

が記事の内容で、 が生徒の感想意見であり、三つの形式から自由に選ぶようにした。内容のメモは体言止めで書くように指示し、記事内容を一分以上、感想意見を 30 秒以上話して全体で 2 分近くとなるようにした。記事そのものは、準備シートの裏に添付させた。

さらに、今年から指名生徒を二人（年間二回まわる）として、準備シートを事前提出させることにした。これは、事前に記事添削を行って、より適切な発表を選ぶためである。この結果、生徒の発表は内容的にスッキリしたものが増えて、二人の担当者間での競争意識も働くようなメリットが出てきた。しっかりとした記事の発表をするには、新聞全体に目を通して、最も関心があり理解のできる記事を、生徒が選ぶことが必要である。全ての生徒がそこまで取り組むには中々ならないが、二人指名されてどちらかが選ばれることで（優れた方を選ぶとは限らないが）、以前より緊張感をもった取組になったのである。

事前添削ができるので、生徒の記事のまとめ方や問題点をより明確に把握できるようになった。そこで見えてきた問題点を述べる。

4．見出しを使った概要説明における問題点

見出しを重要視した理由は、今日のようにネット等で情報が入手できる環境において、新聞にどのような利点があるかを考えたからである。新聞の最大の利点は、見出しを一覧することによって、社会の様々な動きを短時間で確認できることである。この見出しの利点に気づき、新聞に目を通すことが増えて新聞への関心の高まることが目標であった。正直言って、この目標が成功しているかどうかは不明である。記事発表とは違う発想の、見出しそのものに着眼する取組が必要かもしれない。

この方式の問題点は二つある。多いのが、見出しを使わずにリードなどの文を切り貼りしてまとめるケースである。もう一つが、何も情報を加えないまま見出しをつなげて、一応の形になればよしとするケースである。

一つ目のケースの問題は、見出しを使う意義が見えていないことであり、複雑な作業を避けることである。つまり、三つの見出しの相互関係を把握し、そこに含まれる数個の情報を編集して、必要な 5 W 1 H の情報を補って、存在しない概要の文章を自力でつくるといった面倒な作業を避けるのである。この理由は、訓練が十分でないことと、文の切り貼りによって確実に「正解」に近づけると生徒が考えるからである。こうした発想は、日頃の国語科のテスト問題や採点の仕方に原因があるのだろう、と考える。言わばこの記事発表の取組は、こうしたテスト正解のための「切り貼り」主義との闘いである。

なお、この問題点を引き出す欠点が準備シートにあったのに気づいて、二回目の発表からシートを訂正した。つまり、行数が 3 行と多くて長い文を書かねばと思わせるようになっていたので、これを 2 行に減らした。

二つ目のケースは、大半が先と同じ生徒の手抜きであり、記事をしっかり読みたくないという問題である。しかし、記事によっては見出しが安易であるケースもある。つまり、多面的な見方を示す見出しでなく、そのままつなげて普通の文章になるものも存在する。

また、概要説明のスピーチが、生徒の発表の仕方が下手なために分かりにくいという問題もある。最初の三つの見出しを早口で棒読みにする者が多いのである。大きくゆっくり語句を切りながら読めず、見出しと概要説明との声のトーンを変えられないのである。これが直らないのは、指示の仕方が不十分なことが大きい理由だろう。もっとマニュアル化

した指示プリントを検討したい。

事前添削で見出しの情報が使われていない点を指摘するので、実際の発表では若干修正されるが、見出しの大切さや活用の仕方が生徒の間で十分に広がったとは言い難い。

5．記事の詳細説明における問題点

見出しで概要を確認した後は、見出しでは分からない詳しい内容をまとめることとなる。その分量は、概要の行数を減らした分、4行から5行に増えた。この詳細説明における最大の問題は、記事情報のまとめ方が十分に煉られていないことである。

指示は、「記事全体を読んで、見出しでわからない具体的な情報要素(語句、数値)を数箇所マーク(長い文章をマークしない)。マークした事項をもとに、詳しい事実や背景、影響などをまとめる。記事の丸写しをしないこと」である。しかし、多くの場合、記事にマークがされていない。次に多いのが、記事に3 - 4カ所ほど長い文章をマークして、それらをつなげて詳細説明にすることである。前のケースも実際にはこうした作業が行われていると思われる。こうしたケースでは、これらの文が別々の文脈の中にあり、主語が異なったり意味合いが異なったりする。しかし、間に適切な語句を入れて、全体として趣旨が一貫する文章とすることができない。個々の文は記事から切り取ったために変でないものの、記事が伝えようとした事件の内容が、全体としての確に伝わらない詳細説明の文章となってしまうのである。

これが先に述べた、テスト正解を得るための「切り貼り」主義の典型的な弊害である。自分で文章を考えることをやめて、生の文をつなげることで、点数が大きく引かれない無難な文章をつくる技術の問題である。センター試験などで選択肢から適切な内容を選ばせるが、大半はすりかえたり誇張したりした選択肢である。本文の切り貼りをした選択肢を示して、全体の趣旨が最も適切なものを選ぶ訓練をしないと、この種の弊害をなくすことができないと考えられる。

この記事発表の構成は、まず見出しを使った概要があり、それに追加する形で詳細説明があるので、概要の情報に対応して詳しい事実や背景、影響などが述べられねばならない。また、そうした意識で記事を読み直して情報を選んでマークし、一度抜き出した情報を整理する下書きをした上で、改めて文章をまとめるという作業が必要になる。的確に情報を選ぶには、テーマや背景に関する問題意識や一定知識も必要となる。しかし残念ながら、そこまでいいいな作業を行うのは難しく、重要な情報を拾い上げて分かりやすくまとめられれば上出来であろう。この意味で、3 - 4カ所の文をつなげることをやらせない、という点に絞った指導が必要だろう。

ただし、より質の高い説明文をめざして、見出しの概要の中で特に重視すべき情報を選び、これに対応する具体的な事実や背景を重点的に説明することを意識させたい。

6．感想意見における問題点

この記事発表は年に二回行えるので、当初の予定では、一回目に概要と詳細内容の指導、二回目に感想意見の指導を重点とすることを考えていた。実際には、内容の指導も十分にいかないが、ここでは感想意見における問題点について述べる。

現在の準備シートでは、感想意見を a)疑問(～ではないか) b)対策(～すべき) c)そ

の他の形で各々 2 行分が書けるようになっている。ここでの最大の問題は、抽象的な、どのテーマについても言える意見である。記事の内容そのものに関して、問題ではないか、対策すべきだと、ただ述べるだけなのである。テーマに関して問題意識の高い者は、それなりに意味のある疑問や対策を提示できるだろうが、大半の者は記事自体も十分理解できていないので、さらに深い感想意見を求めるのが難しいという現状である。ここで 30 秒以上のスピーチを期待するが、2 行分しか書けずにそれ以上のことを全く言えない者もいる。

改めて考えると、ここでは事件の背景や影響などについて、自分の言葉で振り返りながら、少しでも具体的に疑問や対策のようなことが述べられればよいという目標設定にすべきなのかもしれない。その意味で、2 行ごとに書かせるのは、より具体的に述べることを難しくしているので、準備シートの形式が感想意見の弱点を増長させているとも言える。

期待できるとすれば、一つの記事だけで考えるのではなく、別ページの記事やネットなどで調べたことも含めて、自由に感想意見を発展させていくことだろう。この方向で記事発表のあり方を改善していかなければならない。

8. 今後の課題

今回の報告をまとめる中で、今までいろいろと工夫を重ねてきた記事発表の様々な問題点に気づくことができた。根本的な問題が、「今日のビッグニュース」という形式の問題である。「今日の」と言うと、最近の記事から選ぶことを強制される感が強くなってしまふ。「新聞を毎日見ることが苦にならない練習」と意義付け、「提出日前日、前々日の新聞全体に目を通し、いくつかの記事を読んでから選ぶ」という指示をしている。しかし、そうになると、生徒の発表が良くなるかどうかはかなり偶然に左右されることとなる。大きな事件が起きて、情報量の多い記事が出た方が有利になるからである。

記事発表をより良くすることを第一目標とするならば、記事のテーマが生徒にとって問題意識を感じる、背景や今までの経緯について調べたいと思うものでなければならない。「新聞に毎日目を通す」ことを目標にすることは大切であるが、最近の記事を取り上げる形でこの目標を追求するのは難しい。大半の、日頃ニュースを見ていない、新聞に目を通さない生徒であれば尚更であろう。その意味では、生徒が関心を持った記事を 2 - 3 週間くらいの期間で選ばせる、という形がよいのだろう。「マイ・ビッグニュース」となるか。指名された期間だけでも毎日新聞に目を通すことを課すのである。記事発表課題の重さを増すことになるが、社会の大きな動き、意味のある事件をウォッチして考える訓練としての意義が増すと考えられる。この場合、記事発表の後、次の担当者に質問やまとめをさせる時に、生徒の問題意識に深く寄り添った発表となるので、この質問の機会が議論や討論の場として機能することも期待できるだろう。

この他、取組の全体説明と準備シートに関して、より具体的な指示を盛り込んだマニュアルとし、「準備の自己評価」でなく項目チェックを入れることの方が有効だと気づいた。具体的な改善案を検討していきたい。

● <資料> 現行の「今日のビッグニュース」準備シート

☞ 「今日のビッグニュース」準備シート Ver.6.3 書き方<体言止め、一文一意>

1 年___組___番 氏名：_____

___月___日提出 記事：___月___日___新聞(朝/夕)___面 裏に記事を貼る

1) 見出し：記事からそのまま写す。 が最重要と思う見出し。

以下はスピーチ用メモ、体言止めで記入し、「ですます」や接続詞を補って話す。

2) 要約：まず、1) 見出しを述べ、2) の順で事件を説明する。1分以上。

概要：1)の見出し内容を組み換えてまとめる。WhoWhenWhereWhatWhyHowに留意。

詳細内容：マークした情報を使い事件の詳細や背景、影響を補足。記事丸写しはしない

3) 意見：30秒は話す。事件を分析して、疑問か解決策、その他形式を使ってスピーチ。

_____ではないか。

_____が

_____すべき。

その他の形の感想意見 _____

準備の自己評価 / 3段階評価(2/きちんとできた、1/不十分、0/できず)を[]に記入

準備にかかった時間約_____分 記事選びの時間を入れて目標30分

記事選び[]、提出[]、要約[]、意見[] 合計_____点/8

教員評価 / 選び、提出、声、要約、意見 スピーチ[]/5